

# 『物理の日』の制定

長谷川修司 〈第79・80期会長、東京大学大学院理学系研究科 shuji@phys.s.u-tokyo.ac.jp〉

## 1. なぜ『物理の日』を制定するのか

2025年が国際量子科学技術年、2026年が本会の創立80周年記念、2027年が東京数学会社（のちの日本数学物理学会）の設立から数えて創立150周年と、記念すべき年が3年も続くため、第80期（2024年度）理事会は、記念事業臨時委員会を立ち上げて広報委員会と共同してさまざまな記念事業を企画・実施することを決めました。その一つとして、『物理の日』を制定することを2024年9月の理事会で決議しました。『物理の日』制定を機に、中学生・高校生・大学生や一般市民の皆様に対して、物理学の進展や物理学と社会との密接な関わりについての啓発活動をさらに活発化させ、上記の記念年が終了した後も末永く物理学の啓発活動のよりどころとして残したいという願いが込められています。

## 2. 制定までのプロセス

2024年10月～12月、会員・会友の皆様より『物理の日』の候補日とその由来・理由を募集したところ、200件を超える提案をいただき、約90の日が候補日として挙げられました。そのなかから理事会で候補日を13に絞って2025

年2月7日まで会員・会友による投票にかけました。総投票数1,698票の結果を図1に示します。この結果をもとに、2025年3月の理事会で11月3日を『物理の日』と決議し、3月14日付で日本記念日協会に登録されました（図2）。



図2 日本記念日協会からの『物理の日』登録証。

| 候補日    | 候補となった由来、理由                                                                                                                                                                                      | 投票数 |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 1月6日   | 電気素量 $1.6 \times 10^{-19}$ [C] にちなんで<br>Based on the elementary charge ( $1.6 \times 10^{-19}$ [C])                                                                                              | 20  |
| 3月6日   | 3世代と6種のクォークにちなんで<br>Referring to the three generations and six types of quarks                                                                                                                   | 23  |
| 3月8日   | 光速の近似値 $3 \times 10^8$ [m/s] にちなんで<br>Inspired by the approximate value of the speed of light ( $3 \times 10^8$ [m/s])                                                                           | 279 |
| 4月17日  | 素粒子にはたらく4種の力と17種の素粒子にちなんで<br>Referring to the four fundamental forces and 17 elementary particles.                                                                                               | 78  |
| 4月28日  | 日本物理学会の設立総会開催日<br>The date of the founding general meeting of JPS.                                                                                                                               | 240 |
| 4月2日   | 熱の仕事当量 4.2 [J/cal] にちなんで<br>Commemorating the mechanical equivalent of heat (4.2 [J/cal])                                                                                                        | 8   |
| 5月17日  | 微細構造定数 $1/137$ にちなんで、1年（平年）の137日目<br>Related to the fine structure constant ( $1/137$ ) and the 137th day of a non-leap year                                                                     | 95  |
| 6月6日   | 万有引力定数 $6.67 \times 10^{-11}$ [ $\text{m}^3 \text{kg}^{-1} \text{s}^{-2}$ ] にちなんで<br>Based on the gravitational constant ( $6.67 \times 10^{-11}$ [ $\text{m}^3 \text{kg}^{-1} \text{s}^{-2}$ ]) | 64  |
| 8月31日  | モル気体定数 $8.31$ [ $\text{J K}^{-1} \text{mol}^{-1}$ ] にちなんで<br>Inspired by the molar gas constant ( $8.31$ [ $\text{J K}^{-1} \text{mol}^{-1}$ ])                                                  | 14  |
| 9月8日   | 重力加速度 $9.8$ [ $\text{m/s}^2$ ] にちなんで<br>Referring to the acceleration due to gravity ( $9.8$ [ $\text{m/s}^2$ ]).                                                                                | 277 |
| 10月5日  | ディラック定数 $1.05 \times 10^{-34}$ [J·s] にちなんで<br>Related to the Dirac constant ( $1.05 \times 10^{-34}$ [J·s])                                                                                      | 44  |
| 11月3日  | ニホニウム原子番号「113」にちなんで。湯川秀樹氏がノーベル賞に決まった日<br>Commemorating the atomic number of Nihonium (113) and the date Hideki Yukawa was awarded the Nobel Prize.                                               | 437 |
| 12月14日 | マックス・プランクによる量子仮説の発表の日（1900年）にちなんで<br>The day Max Planck announced the quantum hypothesis (1900)                                                                                                  | 119 |

図1 『物理の日』候補日に対する投票結果。

1949年11月3日に、湯川秀樹が日本人初のノーベル賞を受賞することが決定・発表されました。また、日本で発見されて周期表に掲載されている元素「ニホニウム」の原子番号が113です。このように、11月3日となったのは、日本の物理学に関して記念すべき日・数字であることが由来です。

3. 『物理の日』をどう生かすか

『物理の日』を含む1週間を『物理週間』、また11月を『物理月間』として、学会本部だけでなく各支部や各領域、各委員会などが主体となってさまざまなアウトリーチ活動を

活発に行ってほしいと思います。奇しくも本会は毎年11月に、対面・オンラインのハイブリッド形式の公開講座を開催してきていますので、支部各地でも同様な活動を拡げていただければと願っています。

個人的なアイデアですが、現在大好評のうちに毎月開催されているオンライン物理講話のスペシャル版として、毎年10月初旬に発表されるノーベル賞を解説するオンライン講話を、11月3日に開催するというのはどうでしょう。文化の日の休日でもありますので、多くの聴講者を集めて恒例行事になるのではないかと期待しています。

(2025年10月2日原稿受付)

『大学の物理教育』誌定期購読のすすめ

『大学の物理教育』は、年3回(3月、7月、11月)発行で年間購読料(個人)は1,200円です。購読ご希望の方は、1. 会員番号、2. 氏名(非会員の方は連絡先、送付先住所も)、3. 購読開始年(西暦)をメール(pubpub@jps.or.jp)またはFax(03-3816-6208)でご連絡下さい。

また、本誌ホームページのURLは次の通りですので、どうぞご覧下さい。

<https://www.jps.or.jp/books/kyoikushi/>

『大学の物理教育』編集委員会

Vol. 31-2 (7月15日発行) 目次

巻頭言

物理オリンピックの物理普及啓発活動.....渡辺一之

特集 第15回物理教育シンポジウム

「物理教育における高大接続の課題点と今後の展望

～中教審答申から10年を機に～」

趣旨説明.....高須雄一

日本における高大接続の視点から見た新入生のプロフィールと  
米国の高大接続制度について.....山田礼子

探究と高大接続.....島野誠大  
多様な学力の学生を対象とした大学初年次の物理教育

.....平野裕一

物理の高大接続：高校と大学での経験から考える.....岸澤真一

連載 物理教育と接続問題

数学との教科間連携を重視した物理内容の指導法の検討

～児童・生徒の納得を得るために～.....石井俊行

講義室

古典電磁気学における電気双極子放射を再考する.....諏訪田剛

角度の次元とプランク定数.....北野正雄

実験室

水中のピンポン玉の振り子振動における誘導質量の評価

.....作田 誠、色川勝己、園田英徳

談話室

分野と大学の垣根を超えた学びの場 Scientia Meetup

.....山田吏月、八木俊輔

アルキメデスとメニスカス.....佐々木一夫  
力のモーメントについて起こりやすい誤解

.....坂井伸之、池田翔貴

追悼

笠耐先生を偲ぶ.....兵頭俊夫

中山正敏/増子 寛/滝川洋二/赤羽 明

開催情報

編集後記